



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.14
(通巻114号)
平成28年(2016)
9月9日(金)

夏休みの出来事③・終

『人権擁護委員 松村先生からの手紙』

校長 飯野 博史

7月4日(月)に目黒区人権擁護委員 松村由紀子先生に「人権講話」をしていただきました。講話を聞いたあと、生徒全員で感想やお礼の言葉を書き、松村先生にお送りしました。夏休み中に松村先生から「第八中学校全校生徒の皆さんへ」というお手紙をいただきました。感想文を読んで気が付いたことなどを便箋4枚にもわたって書いてくださいました。9月5日(月)の全校朝礼で校長が全文を生徒に読みました。一部分をご紹介します。

■第八中学校全校生徒の皆さんへ

人権講話の感想文、読ませていただきました。1年生から3年生まで、一人一人が講話にしっかりと耳を傾け、理解しようと努め、深く考え、前向きに真剣に受け止めてくださったことが何よりうれしく感動いたしました。ありがとうございました。

2年生のある人が「本気で、今の人権(侵害)の状況を変えていきたいのだ、という気持ち伝わった」と書いてくれました。おっしゃる通り、私は人権擁護委員という役目を受けた時から、一人でも多くの人に人権問題に関心をもってもらえるよう、そして人権侵害を受けている人が一人でも少なくなるよう願い、自分なりに一生懸命中学生の皆さんにお話をさせてもらおう、と考えてきました。まず、そんな気持ちをしっかりと受け止めていただいたことにお礼申し上げます。

それではいくつか感想や私の考えを申し上げます。

一つめ、人権問題は難しい、自分とは関係ない、と考えたこともあったが、自分の身近な問題であることに気付いた、と多くの方が書いてくれました。特に何気なく交わっていたあいさつの言葉にも人権に関わる大切な要素があることに触れていた感想文も多く、ありがたく思いました。

二つめ、例に挙げた二つの作文を自分自身の問題として受け止めてくれた人が多く、とてもうれしかったです。同じ吃音障害を自分自身が持っている、家族が持っている、とありのままの経験を書いてくれた人。あるいはある障害のためにいじめられたこと。いじめた経験も含めてすなおに自分を振り返ってくれた人。できれば書きたくなかった今までの経験を、こうして書いてくれたことこそ大事なことだと思います。

(中略)

いじめとは、強い立場の者が、(反論できない)弱い立場の者を一方的に攻撃することで、相手が人間らしく生きていけないようにすることと考えています。人間には誰にでも欠点や短所があって、多くの場合はそれをお互いに注意しあったり、意見を闘わせながら、気持ちよく生きていけるように助け合っているのではないのでしょうか。その「お互いに意見を言い合ったり、注意し合ったり」の部分がなくて、一方的に否定し、はやしたてたり、徹底的に攻撃するところにいじめが生まれるのだと思います。欠点があるからいじめられて当たり前ではなく、お互いに相手を「知る」努力をしながら、欠点も含めて注意をしたり、認めたりする雰囲気を作っていきたいですね。お互いの個性を認め合う中で成長し合うのだと思います。疑問や反論を提示することも考えを深める上ではとても大切。ぜひ、こうした視点からも、クラスで、友だち同士でたくさん話し合ってください。

夏休みに入ってすぐに大変悲しい事件がありました。相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」を深夜に元職員が襲い、19人が死亡するという事件でした。「障害のある人は生きていても価値がない」といった発言を繰り返し犯行に及びました。容疑者の取り調べが進んでいますが、私たちの身近で起きている「いじめ問題」に深いところでつながっているのでは…と感じました。

容疑者の主張は一見理解しがたいものですが、実は私たちの社会の意識の表れとも言えないでしょうか。弱い者をいじめたり差別したりしようとする社会、序列化があり効率や業績が悪い人を排除しようとする社会、学歴がないといって馬鹿にするような社会……私たちの社会の歪んだ意識がこの容疑者の発言に投影されてはいないでしょうか。

容疑者は、自分で助けを呼べない人たちを次々におそい、傷つけ、命をうばいました。とても残酷で、決して許せません。亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、悔しい思いです。

容疑者は「障害者はいなくなればいい」と話していたそうです。みなさんの中には、そのことで不安を感じる人もたくさんいると思います。

そんなときは、身近な人に不安な気持ちを話しましょう。みなさんの家族や友達、仕事の仲間、支援者は、きっと話を聞いてくれます。そして、いつもと同じように毎日を過ごしましょう。不安だからといって、生活のしかたを変える必要はありません。

障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あってはなりません。もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください。

これは事件のすぐあと、知的障害者と保護者らでつくる「全国手をつなぐ育成会連合会」が、事件で不安を感じている障害者に向けて発信したメッセージです。

一人一人がかけがえのない存在です。お互いの違いを認め合って生活していくことが大切です。第八中学校では東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、人権について様々な学習に取り組んでいます。「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」という、人権尊重の理念を改めて思い知らされた出来事でした。

松村先生からの手紙、障害者施設殺傷事件、障害者に向けたメッセージ…人権について、いじめについて、ご家庭でも話し合ってみてください。

■「お肉の情報館」を活用した人権学習

1年生が、JR品川駅港南口前にある「東京都中央卸売市場食肉市場 お肉の情報館」を見学しました。普段口にしていないお肉が食卓に届くまでの経路、職員の方たちの仕事に対する思い、職員の方たちに対するいわれのない偏見や差別などたくさんを学習しました。生徒の感想を紹介します。

・「お肉の情報館」を見学させていただき、ありがとうございました。牛や豚が解体・加工されお肉になるまでの過程を今まで全く知らなかったもので、とても勉強になりました。このようなとても大切な仕事をしている人たちに、インターネット上で悪口が書き込まれているということを聞き、悪質でとても悲しいことだと思いました。でも、それにくじけずがんばってください。応援しています。

・「お肉の情報館」を見学して、私たちがほぼ毎日食べている肉がどのようにしてできているかなどを知ることができました。普段何気なく食べている肉に、この市場で働いている方々の思いがあることについても知ることができました。また市場に人権問題があることに驚きました。毎日食べている肉はこの市場で働いている方々のおかげなのに、差別されているのはとてもひどいと思いました。これからも頑張ってください。ありがとうございました。